

「ものづくり海外取引商談会（タイ・バンコク）」報告

販路支援課 取引支援グループ 渡利 祐希

県内企業の海外展開（取引拡大）支援の一環として、11月にタイ・バンコクで開催された「ものづくり海外取引商談会（タイバンコク）」において、県内企業の商談サポートを行いました。

県内企業4社が参加

この商談会は、去る11月、バンコクにて開催されたアセアン地域最大規模の製造業のための見本市「METALEX」の会期に併せ、同じ展示会場内の別室で開催されました。

「METALEX」は近年、出展社数、来場者数とも右肩上がりで増加しており、今回は会場を昨年より約50%増設しての開催となりました。3日間で90,516人の来場者がありました。タイ国内は景気が減速しているようですが、アセアンのものづくりの中心地としての重要性は依然高いことを示しています。

日本からも企業・自治体含め多数の出展があり、島根県からも数社が出展されていました。



今回の商談会については、島根県がバンコクに設置している「島根・ビジネスサポート・オフィス」の業務を委託しているアジア・アライアンス・パートナー株式会社が主催し、当財団をはじめ、複数の自治体、公的機関、JETRO、タイの業界団体であるタイ下請振興協会、タイ金型協会が共催するかたちで開催され、受

注企業約40社が参加し、タイ現地の企業と約120件の商談が行われました。

今回島根県からは4社が参加、商談が行われました。希望企業に対してはタイ語の通訳が1名ずつつき、商談もスムーズに、また活発に行われていました。

参加企業からは「現地の企業との商談ができて良かった」「製品そのものではないが、技術的ところで展開が期待できそう」といった感想がありました。

商談会後には、交流会が開催され、タイ下請振興協



会会長より「このような商談会事業を通じ、両国の協力関係を深めていきたい」との話があり、最後には共催団体に記念品が授与されました。

当県としては、これまでタイの展示会に3回出展していますが、現地での商談会による支援は今回が初の試みとなりました。タイローカル企業の中には、日系企業とビジネスパートナーとしてアライアンスを組み、日本企業の持つ技術力や製品をタイ国内や世界に展開していきたいと考える企業も増えているということです。引き続き、現地の団体・企業と協力関係を維持しながら、こういった商談の場を企画、提供していきたいと考えていますが、今後は単なる受発注商談に留まらず、ジョイントベンチャーの可能性などを含む幅広い商談の場としての可能性を模索していきたいと考えます。

国王への敬愛について

最後に今回のタイ訪問で最も印象に残ったバンコクの街の様子をお知らせしたいと思います。

訪問した昨年11月下旬は、プミポン前国王が亡くなられてから約1ヶ月後の時期でした。プミポン前国王は、1946年に王位を継承され、昨年10月13日に逝去されるまで約70年に渡って王位につかれ、世界で最も長く在位にあった国家元首となり、また、大變国民に愛された国王だったそうです。

私たちがタイを訪問したときには、既に国王崩御の喪は明けていましたが、依然としてバンコク市内のあちこちにプミポン前国王の写真を掲げた祭壇が設置され、街中ではほとんどの人が黒や灰色といった地味な色の服装を着用していました。ホテルにも喪章が用意されており、私たちが外出の際にはそれを衣服に着け行動していました。



また、朝8時と夕方6時には電車の駅では国歌が流れ、全員が立ち止り、黙とうをささげていました。

タイ国民にとって、敬愛する国王崩御の痛みはすぐに忘れられるようなものではなく、バンコクは依然悲しみに暮れているようでした。

こういった事は、日本ではなかなか体験することがありませんでしたので、タイ国民のプミポン前国王への敬愛について感じた瞬間でした。

現地では、プミポン前国王の崩御の影響による一般消費の減少・娯楽控えもあり、経済の減速感がますます強まっているという話を聞きました。タイ政府も崩



御後すぐに「経済活動を停めてはならない」という旨のメッセージを発していましたが、国民に愛された前国王の不在はじわじわとタイ国民の気持ちを沈ませているようでした。

タイには日本から自動車産業をはじめとした多数の製造業、サービス業が進出しており、その影響が日本企業にも及んでいることは間違いありません。

プミポン前国王に哀悼の意を表すとともに、早い段階でのタイの景気回復を願ってやみません。

(了)